

## 言語聴覚障害学フィールド・スタディ

[実習] 第1・2学年 通年 選択 2単位

《担当者名》 中川賀嗣 poverame@hoku-iryu-u.ac.jp 才川悦子 橋本竜作 永見慎輔 鈴木瑞恵 若松千裕

### 【概要】

臨床技能向上のための実習である。臨床担当教員の指導の下に、北海道医療大学病院・外部関連病院における症例見学を行い、観察記録・評価・訓練を通しての課題分析、担当症例の評価とリハビリテーションを行うことにより言語聴覚障害（摂食嚥下障害を含む）領域の基本的知識・技能とともに臨床コミュニケーション（文書あるいは口頭）を身につける。担当症例については症例検討会（カンファレンス）での報告、症例報告を行う。

### 【学修目標】

一般目標：症例を担当することにより評価・リハビリテーションを行い、言語聴覚障害領域の基本的知識・技能・臨床コミュニケーションを身につける。

行動目標：

1. 適切な用語を用いて臨床観察を行うことができる。
2. 代表的な評価方法を適切に実施し、結果の解釈をすることができる。
3. 訓練目標に適った課題の設定と実施ができる。
4. 担当症例の報告・記録ができ、他職種との連絡・連携ができる。
5. 症例報告を書くことができる。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	実習の概要、スケジュールについて説明する。	中川賀嗣 才川悦子 橋本竜作 永見慎輔 鈴木瑞恵 若松千裕
2～14	フィールドスタディ（臨床実習）	臨床見学で担当症例での評価、分析、リハビリテーション（訓練）、報告と記録、発表を行う。	中川賀嗣 才川悦子 橋本竜作 永見慎輔 鈴木瑞恵 若松千裕
15	まとめ	症例報告書を作成、発表、提出する。	中川賀嗣 才川悦子 橋本竜作 永見慎輔 鈴木瑞恵 若松千裕

### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

症例報告6編（認知言語発達障害、聴覚障害、発声発語障害、摂食嚥下障害、高次脳機能障害、失語症領域） 100%

### 【教科書】

使用しない。

### 【学修の準備】

担当症例に関して事前に情報を収集し、原因疾患とその治療法などについて知識を得ておくこと（80分）。

評価や治療を行う場合には、検査法・治療手技に関して習熟しておくこと（80分）。

担当症例に関して症例報告を書き、その症例の理解を深めること（80分）。

### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

### 【実務経験】

中川賀嗣（医師） 才川悦子（医師） 橋本竜作（公認心理師） 永見慎輔（言語聴覚士） 鈴木瑞恵（言語聴覚士） 若松千裕（言語聴覚士）

### 【実務経験を活かした教育内容】

専門分野に関する学術的、臨床的経験を活かした議論・討論等を行う。